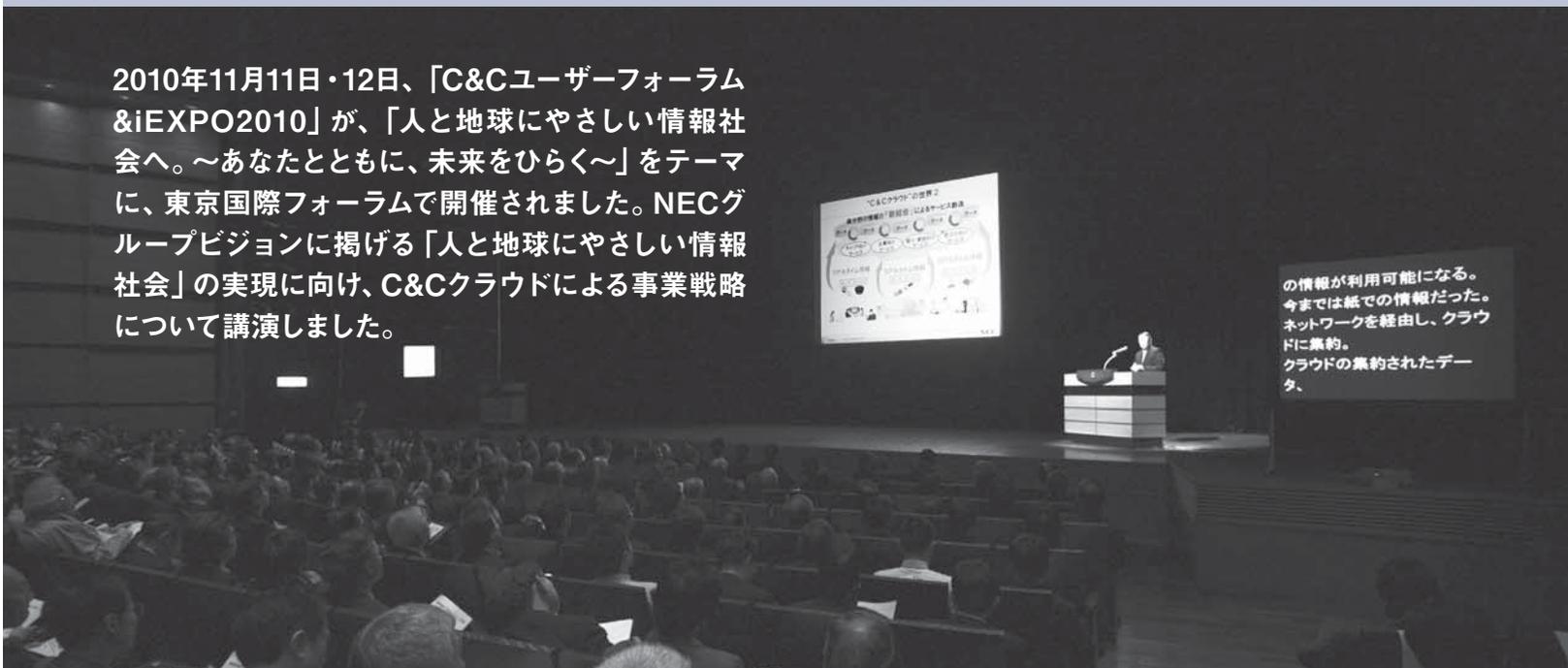


人と地球にやさしい情報社会へ。～あなたとともに、未来をひらく～

2010年11月11日・12日、「C&Cユーザーフォーラム &iEXPO2010」が、「人と地球にやさしい情報社会へ。～あなたとともに、未来をひらく～」をテーマに、東京国際フォーラムで開催されました。NECグループビジョンに掲げる「人と地球にやさしい情報社会」の実現に向け、C&Cクラウドによる事業戦略について講演しました。



NEC 代表取締役 執行役員社長
遠藤 信博

人と地球にやさしい情報社会とは

NECは今年の2月、中期経営計画「V2012」を発表しました。この計画には3つの軸があります。1つはクラウド、次に新規事業の開拓、そしてグローバルへのビジネス展開です。そのなかで一番重要だと考えているのがC&Cクラウドによる「人と地球にやさしい情報社会」の実現であり、マーケットへの貢献です。

NECの目指す「人と地球にやさしい情報社会」とは、誰もが

自由に使える利便性の高いサービスによって、安心・安全・便利で豊かな個人生活を実現し、更に、限りある資源を効率的に活用し、地球環境とも共存・持続的な発展を可能とする情報社会です。NECは、このような情報社会をC&Cクラウドによって実現したいと考えています。

C&Cクラウドの世界

私たちを取り巻くICT環境も、10年前に比べ大きく変わっています。1つはネットワークのブロードバンド化です。この12月からサービスが開始されるLTE (Long Term Evolution) による無線のブロードバンド化の進展などによって、今後は、大量のデータが無線を含めたネットワークで扱えるようになります。また、データを処理するITプラットフォームも、仮想化などの最新技術によって多くのデータを迅速に処理できるようになりました。NECは1977年に“C&C”、コンピュータと通信の融合という概念を提唱しましたが、現在はまさに大量のデータを効率的に扱うことで新たなサービスを生み出すことができる、

*本稿は2010年11月11日「C&Cユーザーフォーラム&iEXPO2010」NEC講演を要約したものです。

私たちにとって非常に良い時代が到来したと考えています。

クラウドの時代において、社会のあらゆる情報は、紙として保存されている情報も含めて、すべてがさまざまなセンサやユビキタス端末を通じてリアルタイムに電子化されます。電子化されたデータは、ネットワーク経由でいくつかのカテゴリに分けられてクラウドに集約され、そしてクラウドのなかでは、これまで連携しなかったデータがカテゴリの枠を超えて相互連携し始めます。そこに新たなビジネス機会や新サービスの可能性が出てきます。大量のデータを処理することのできるクラウドが背景にあり、そのクラウドに対してリアルタイムにデータが上がってくることで新たなサービスが生まれ、そのようなサービスによって「人と地球にやさしい情報社会」をつくり上げていくことができるのだらうと考えています。

クラウドによって創造された新サービスは、モバイル端末やデジタルサイネージなどを通じて、多くのユーザに提供できるようになります。それと同時に、個々に収集されたデータがクラウドのなかで有機的に連携し、新たな付加価値を得てリアルタイムに提供できるようになるのではないかと思います。そのような観点から、今後は、無線ネットワークを活用した新たなモバイルクラウドサービスが注目されてくると考えています。

C&Cクラウドによるお客様への貢献

現在、企業が直面している主な経営課題を挙げると、まず

市場に貢献するなかで自ら成長すること、次にグローバル化への対応、そして事業を運営するうえでの業務効率化や、社会的責任を果たすために必要な環境対策やステークホルダーへの配慮です。NECはC&Cクラウドによって、この4つの課題解決に貢献したいと考えています。

(1) 新サービス/新事業の創出

NECはC&Cクラウドにおいて、さまざまな業種向けのサービスをはじめ、クラウドの構築に必要なITプラットフォームやネットワーク機器、更にはリアルタイムで情報を集める各種センサなどを提供しています。NECはこれらすべてのアセットを持ち、エンド・トゥ・エンドでソリューションを構築できる、世界的にもユニークなICTカンパニーです。これらのアセットをお客様にお使いいただくことで、お客様にとっての新たなビジネスモデルや新サービスを実現していきたいと思っています。

具体的な事例を挙げますと、まず建設業界では、東急建設様・竹中土木様・日本国土開発様・TSUCHIYA様と共同で、多種多様な業務プロセスを処理するITインフラを構築し、新たなクラウドサービスとして他の事業者様にも広く提供できるようにしました(図1)。住宅業界向けにも、住友林業様との協業により、関連する事業者様にクラウドによる新たなサービスを提供しています。また、金融業界では、住友生命様の資産運用システムをクラウドサービス化することにより、TCOの約40%の削減を見込んでいます。更に、キャリア向けの例として

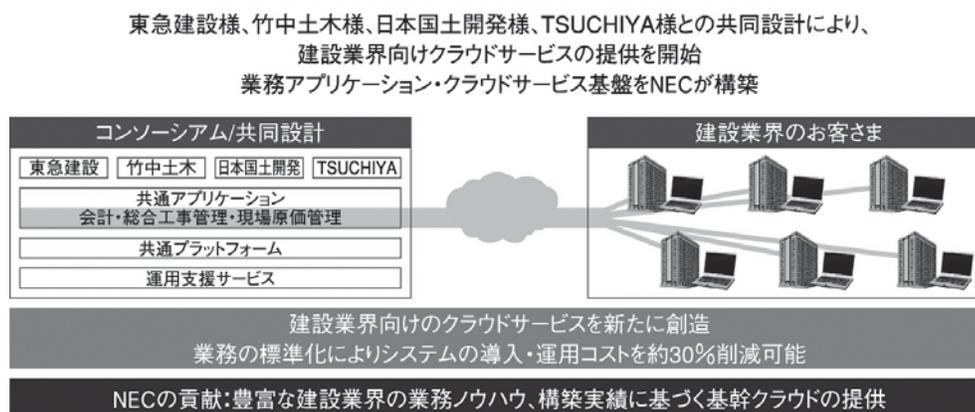


図1 建設業界向けクラウドサービスの共同開発

は、法人向けに新サービスの提供を検討していたスペインのテレフォニカ様に、SaaSの基盤システムを構築しました。テレフォニカ様はこのシステムによって、CRMや資産管理システムをSaaSで提供し、今後は中南米への事業展開も視野に入れています。

デジタルサイネージは、大型ディスプレイにネットワークを通じてコンテンツを配信できるシステムであり、特定のターゲットに対して効果的にメッセージを発信することができます。これを顔認証技術と組み合わせることで、よりきめ細かくプロアクティブなマーケティングツールとして活用することも可能です。先日、新たに開港した羽田の国際ターミナルでも大規模なデジタルサイネージシステムを導入いただき、空港における顧客サービスの要となる役割を果たしています。

私は、クラウドの究極の形はリアルタイムによるサービスの実現であると考えています。その意味で、今後はモバイルクラウドが重要なキーワードになってきます。モバイルクラウドを実現する新たな情報端末として、NECは「LifeTouch」を製品化しました。現在、さまざまな業種のお客様とのコミュニケーションを通じて、この端末の効果的な活用法を検討しているところです。

(2) グローバルビジネス展開のサポート

海外ビジネスの拡大は、日本企業にとって大変重要なテーマです。NECも海外において、グローバルビジネスを展開されるお客様を現地できめ細かくサポートしたいと考え、今年から北米、中南米、中華圏、APAC、EMEAの5極体制を取ることといたしました。NECは、この5極それぞれに統括会社とコンピテンセンターを置き、各コンピテンセンターは、その地域で開発されたソリューションの提供に関して他の地域もサポートします。また、クラウドサービスを提供するクラウド指向データセンター（CODC）を5極で立ち上げ、これらを結ぶグローバルサービスネットワークを通じて、一貫したサービスを提供できる体制を構築したいと考えています。当初のサービスメニューは、NEC自身が構築したクラウド型の基幹システムの横展開を中心に考えています。これは、SAPをベースに開発したもので、NECは世界で初めてSAPのクラウドサービスのパートナーに認定されました。クラウドサービスのグローバル展開に当たっては、先日、中国の大手ソリューションベンダ「東軟」と合弁会社を設立しました。今後はこの会社を中核に、中国市場でSaaSを提供していきます。

既にさまざまな現地発のソリューションが出てきています。例えば、中華圏ではRFIDを使った温度トレーサビリティシステム、北米ではヘルスケアサービス、APACではITのマネジメントサービスを提供しています。今後は“面のグローバル展開”をキーワードに、日本企業の皆様といっしょに新たなソリューションを開発・提供していこうと考えています。

(3) 経営改革・業務プロセス改革のご支援

NECは、これまで多様な業種の15万社のお客様に数多くのソリューションを提供してきました。最近、お客様とコミュニケーションするなかで、ITシステムが複雑化して無駄が多いという声や、さまざまな法規制への対応で膨大なコストが掛かるという声が寄せられています。他にも、グローバルレベルでのITガバナンスに苦慮していることなどをお聞きしていますが、いずれも非常に切実な内容だと思います。NECグループも同じ悩みを持っており、自社内のITインフラが複雑化を極めていたため、基幹業務を標準化・クラウド化することにしました。2010年10月からクラウド型の基幹システムが稼働し始めましたが、これをお客様にお伝えしたところ、これがまさに自分が進めようとしていたことだ、というお話を数多くいただきました。

基幹システムをクラウド化し、複雑なシステムを簡素化したことで、業務プロセスもシンプルに改善することができました。例えば、販売の領域ではこれまで100を超える業務プロセスが存在していましたが、その数を約20にまで削減することができました。このシステムを活用することで、スピード感のある業務遂行、経営のスピードアップを実現できるものと確信しています。また、システムトータルの運用コストも約20%削減できる予定です。既にシステムの一部を販売し、大手自動車部品メーカー、エクセディ様からの受注をはじめ、数十のお客様と商談させていただいています。

また、RFID内蔵型の携帯電話を使ったモバイルクラウドサービスにより、資産管理業務を効率化した例もあります。この携帯電話は、RFIDによる認証機能なども活用することができるため、資産管理以外にもさまざまな新サービスを生み出すことに使えらると思っています。

中堅・中小企業のお客様には、メールやスケジューラなどのフロント業務システムをはじめ、基幹業務システムまでを含めて50種類ほどのSaaSサービスを提供している他、NECネクサソリューションズと共同でパートナー企業を200名体制で支援する「NEC SaaSパートナープログラム」も実施しています。

自動車用電池を中核に、環境・エネルギーソリューションを スマートグリッド領域へも拡大

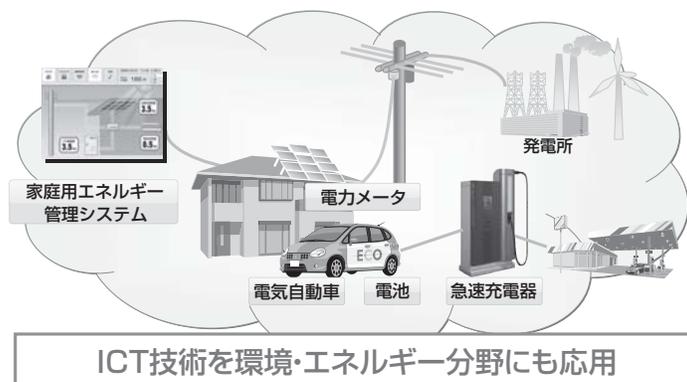


図2 C&Cクラウドによる貢献～社会全体のグリーン化～

(4) 地球にやさしい社会の実現

ITによるグリーン化については、大きく2つの取り組みを進めています。1つは、グリーンITを実現するプラットフォーム製品の提供、もう1つは、ITの活用によるCO₂排出量の削減です。

例えば「Cloud Platform Suite」は、短期間でのシステム構築が可能であり、リソース面でのエコ対策についても支援することができます。また、最新のビジネスパソコンでは、備え付けられたセンサによってユーザの離席を感知し、自動的にモニターの電源をOFFにするという省エネモデルがあります。そのほかにも、さまざまな省エネ対応製品を提供し、お客様のエコ対応をトータルに支援しています。

ITを活用したCO₂排出量の削減については、現在「オフィスまるごとエコ」というネーミングで、ファシリティを含めたオフィス全体の省エネ化を支援しています。5月に竣工したNEC玉川ソリューションセンターでは、この「オフィスまるごとエコ」を実践することで、約50%ものCO₂排出量を削減できる見込みです。

社会全体のグリーン化、地球にやさしい社会の実現に向けた取り組みとして、NECは環境・エネルギー事業にも注力しています(図2)。電気自動車の領域では、日産自動車様向けの自動車用リチウムイオン電池を手がけており、今後はこの技術を生かしたスマートグリッドや家庭用エネルギー管理システ

ム、スマートメータなどについても事業領域を広げたいと考えています。スマートグリッドの分野では、発電からビル・家庭に至るまでの広範囲にわたりICTを活用し、蓄電の領域などでの実証実験に取り組んでいます。こうした活動の成果が少しずつ出てきており、引き続き「人と地球にやさしい情報社会」への取り組みを加速させていこうと考えています。

また、NECは衛星ビジネスにも携わっており、地球への奇跡的な帰還を果たした「はやぶさ」プロジェクトにも参画しました。衛星で使われる高度な無線技術や制御技術などは、高度な運用技術が求められるスマートグリッドなどに応用できると考えています。NECはこうしたアセットを活用し、夢のある「人と地球にやさしい情報社会」を目指してまいります。

以上、ご紹介させていただきましたとおり、NECグループは“C&Cクラウド”を通じてお客様とともに新サービスを企画・開発することを始め、お客様のグローバル展開やオフィスの環境対策などについても一括してご支援させていただきたいと思っております。今後ともぜひ、皆様からのご指導・ご支援をいただけると幸いです。どうぞよろしくお願いたします。